

RSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）の 無料接種を開始します

令和8年4月から、RSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）が予防接種法に基づく定期接種に位置づけられることから、市では、生まれてくる赤ちゃんのRSウイルス感染を予防するため、妊娠中の方を対象に無料でRSウイルスワクチンの接種を開始します。

1 RSウイルス感染症とは

RSウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症で、すべての乳幼児が2歳までに感染するといわれ、何度も感染と発病を繰り返す病気です。

感染すると、2～8日の潜伏期間を経て、発熱や鼻水、咳、喉の痛みなどの症状から始まり、炎症が進むと細気管支炎や肺炎を発症する場合があります。感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、ゼーゼーと呼吸しにくくなる喘鳴（ぜんめい）や呼吸困難の症状がでるなど重症化し、点滴や酸素投与、人工呼吸器などの呼吸管理を必要とする場合があります。

RSウイルスは接触・飛沫により感染するため、手洗いや換気といった基本的な感染対策が有効です。

2 RSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）の概要

生まれたばかりの赤ちゃんは免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体を作ることができないとされています。RSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）は、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、生まれた時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

出産の14日前までに接種を行うことで、母体内で作られた抗体が赤ちゃんに移行するといわれていますので、妊娠28週を過ぎたら、早めの接種をご検討ください。

定期接種の対象者	妊娠28週0日から36週6日までの妊婦
接種回数	1回（妊娠ごとに1回）
費用（自己負担）	無料
接種できる医療機関	(1) 妊婦健診を受けている県内の医療機関 (2) 市内の小児科 ※里帰り分娩を予定している方など、市外の医療機関で接種を希望している場合や、接種する医療機関でお困りの場合は、健康づくり課までご相談ください



市ホームページ